

先史時代のポンペイ：橋牟礼川遺跡

橋牟礼川遺跡は、一見するとただの公園のように見える。しかし、青々とした芝生とリラックスした雰囲気は、日本の古代の人々を研究するうえでこの遺跡が持つ非常に重要な意味を覆い隠している。

1916 年、公園で遊んでいた男子高校生が、古い土器の破片を見つけた。彼はその破片を先生のもとへ持って行った。先生は、それらが日本の先史時代の民族である縄文人と弥生人が混在しているように見えることに気づいた。それまで、縄文人と弥生人は別の地域に住んでいたと考えられていた。その高校生の発見は、そうではないことを示唆していた。先生はその破片を京都帝国大学の濱田耕作教授（1881-1938）に送った。濱田教授は日本先史時代の年代を解明する好機ととらえた。

濱田教授は橋牟礼川遺跡を発掘し、火山噴火の証拠とともに、地層年代を明確に示す噴火の痕跡を発見した。噴火を基準にして、縄文人が弥生人よりずっと前に存在していたことを証明することができた。この発見により、日本列島における文明の発展が明らかになった。橋牟礼川は 1924 年に国の史跡に指定され、現在は、古代の竪穴住居が再現されたものが公園のおもな見どころとなっている。

考古学的な発見は、新たな情報を提供し続けている。イタリアのポンペイのように、過去の噴火による火山灰は村全体を埋め尽くし、古代の人々の日常生活の青写真として保存されている。ゴミ塚や調理器具からは、彼らが何を食べていたかがわかり、火山灰に閉じ込められた花粉からは、歴史上のさまざまな時期にどのような植物が繁茂していたかがわかる。これらの遺物の一部は、隣接する指宿市考古博物館に展示されている。